

都市再生整備計画 事後評価シート

小野地区

平成27年3月

兵庫県小野市

様式2－1 評価結果のまとめ

都道府県名	兵庫県		市町村名		小野市		地区名		小野地区			面積	555ha	
交付期間	平成22年度～26年度		事後評価実施時期		平成26年度		交付対象事業費		1,645	国費率	0.4			
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	道路(市道109号線、市道1003号線、市道1031号線)、公園(大池総合公園、王子区画公園)、地域生活基盤施設(図書館北広場、大池水辺広場)、高質空間形成施設(市道1003号線、通り池修景整備)											
		提案事業	地域創造支援事業(市立図書館)											
	当初計画から削除した事業	基幹事業	事業名				削除/追加の理由				削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
		提案事業	なし				—				—			
	新たに追加した事業	基幹事業	道路(市道5002号線、市道5005・5013号線、市道1110号線、市道1741号線、市道1102号線)公園(黒川西公園、ひまわりの丘公園)地域生活基盤施設(サティ前広場)、高質空間形成施設(大池修景整備、市道5002号線、市道1110号線、市道1102号線、ソロ池修景整備)、高次都市施設(福祉総合支援センター、市民交流ホール)、土地区画整理事業(小野市黒川西土地区画整理事業)				①快適な都市環境、生活環境を創るため道路整備、公園整備等を追加 ②新たな憩いの場を設け、交流人口の増加によるまちなかの活性化を図るため、ひまわりの丘公園を追加 ③地域福祉の一層の向上を図るため、住民要望のあった福祉総合支援センターを追加 ④公共施設の整備改善や生活環境改善等を図るため、住民要望のあった土地区画整理事業を追加 ⑤市民活動拠点の機能強化や地域間交流、市内外の企業間交流等を促進し、活力と賑わいのあるまちづくりを推進するため市民交流ホールを追加				①道路整備、公園整備:目標、指標に関係するが、数値目標は据え置く。 ②ひまわりの丘公園:指標、数値目標を新たに追加 ③福祉総合支援センター:目標、指標、数値目標を新たに追加 ④土地区画整理事業:指標、数値目標を新たに追加 ⑤市民交流ホール:指標、数値目標を新たに追加			
		提案事業	地域創造支援事業(福祉総合支援センター、小野市黒川西土地区画整理事業区域内)				①地域福祉の一層の向上を図るため、住民要望のあった福祉関連施設の事業を追加 ②土地区画整理事業に付帯し、居住環境の改善及び既存のコミュニティの保全を図るための建物移転補償等を追加				①福祉総合支援センター:指標、数値目標を新たに追加 ②土地区画整理事業:指標、数値目標を新たに追加			
	交付期間の変更	当初	-		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響									
		変更	-											
	2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指 標		単位	従前値		目標値		数 値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期
				基準年度		目標年度	モニタリング	評価値						
指標1		道路利用者の満足度	%	10	21	50	26		89	○	あり なし	道路整備(車道拡幅、歩道新設・拡幅・インターロッキング舗装等)や道路照明灯などの設置により、利便性・快適性・安全性が向上し、道路利用者の満足度が増加した。	—	
指標2		公園利用者の満足度	%	17	21	50	26		92	○	あり なし	大池総合公園のテニスコート、トイレ、四阿の改修や区画整理地(王子町・黒川町)内の公園整備を行うことにより、利便性・快適性が向上し、公園利用者の満足度が増加した。	—	
指標3		ひまわりの丘公園利用者数	人	700,000	25	750,000	26		720,000	△	あり なし●	噴水施設の整備により、夏場(8・9月)の利用者の増加はあったものの、年間全体で利用者数が減少傾向であった。	平成27年4月	
指標4		福祉総合支援センターのイベント参加者数(市民交流スペース・機能増進室)	人	5,000	21	7,500	26		7,500	○	あり なし	福祉総合支援センターが整備されたことにより、これまで別々にあった福祉部門を集約し、利用者の利便性の向上を図ることができた。また各種講座やイベント等の開催ができるスペースができたことにより、イベント参加者数が増加した。	平成27年4月	
指標5		区画整理地内の定住人口	人	25	22	37	26		37	○	あり なし	土地区画整理事業により道路、公園、下水道などの都市基盤施設が整備され、安全・安心・快適な住環境が実現し、定住人口が増加した。	平成27年4月	
指標6		交流人口	人	44,150	23	53,000	26		60,000	○	あり なし	市民交流ホールを整備したことにより、これまでできなかった大規模な同窓会や各種行事等(市民交流イベント、講演会等)に利用され、順調に交流人口は増加した。	平成27年4月	
3)目標を定量化する指標の目標値設定の考え方	・道路、公園利用者の満足度・・・概ね利用者の半数以上が満足する環境を目標値とした。 ・施設の利用者数等・・・施設新設による既存施設の利用者数増などの相乗効果を見込み、目標値とした。 ・土地区画整理事業・・・新しく販売される宅地数から定住人口の増加を見込み、目標値とした。													
4)定性的な効果発現状況														
5)実施過程の評価		実施内容				実施状況				今後の対応方針等				
	モニタリング	なし					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった							
	住民参加プロセス	中心市街地まちづくり協議会の活動					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				●	中心市街地まちづくり協議会が中心となり、住民によるまちづくりを進めている。		
	持続的なまちづくり体制の構築	①中心市街地まちづくり協議会の活動支援 ②NPO法人 北播磨市民活動支援センターの活動支援					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				●	①中心市街地まちづくり協議会と行政が連携し、整備計画を進める。 ②NPO法人の自主的な活動を尊重し、市は運営の評価や後方支援を行う。		

様式2-2 地区の概要

小野地区（兵庫県小野市）都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
中心市街地、シビックゾーン及びその周辺の整備による快適で魅力あるまちづくりの推進と市民活動の促進 目標①中心市街地整備の推進により、交通環境の向上等を図り、快適な生活環境を創造する。 目標②シビックゾーン及びその周辺の景観に配慮した都市環境の向上を図り、快適で美しいまちづくりを推進する。 目標③福祉関連施設の充実整備を行うことにより、地域福祉の円滑な推進を支えるコミュニティづくりを推進する。	道路利用者の満足度	単位：％	10	H21	50	H26	89	H26
	公園利用者の満足度	単位：％	17	H21	50	H26	92	H26
	ひまわりの丘公園利用者数	単位：人	700,000	H25	750,000	H26	720,000	H26
	福祉総合支援センターのイベント参加者数（市民交流スペース・機能増進室）	単位：人	5,000	H21	7,500	H26	7,500	H26
	区画整理地内の定住人口	単位：人	25	H22	37	H26	37	H26
	交流人口	単位：人	44,150	H23	53,000	H26	60,000	H26

The figure illustrates the progress of urban regeneration projects in Ono City. It includes a grid of photos showing completed facilities like the Civic Exchange Hall and Welfare Support Center, a central map with project location callouts, and a series of photos showing road improvements along specific municipal roads.

まちの課題の変化	・老朽化した大池総合公園のテニスコート、トイレ、四阿等の改修や駐車場整備等を行い、利用者の利便性・快適性の向上を図ることができた。 ・中心市街地周辺、シビックゾーン北側の道路整備（車道拡幅、歩道新設・拡幅・インターロッキング舗装等）や道路照明灯などの設置により、利便性・快適性・安全性が向上し、交通環境の改善を図ることができた。 ・黒川西土地区画整理事業の実施により、道路、公園、下水道などの都市基盤施設が整備され、安全・安心・快適な住環境が実現し、定住人口が増加した。 ・夏の新たな憩いの場として、噴水施設を設置した結果、快適性が向上し、夏場（8・9月）の利用者数が増加し、地域の活性化を図ることができた。
----------	---

今後のまちづくりの方策 （改善策を含む）	・小野地区第Ⅱ期整備計画実施により、中心市街地やシビックゾーン周辺の交通環境、生活環境は大きく改善した。今後は、商店街を中心とした中心市街地の活性化や生活環境の改善に向け、引き続き、中心市街地まちづくり協議会と市が連携し、商店街周辺における東西路線の整備、駐車場や公園整備等を含む面的整備や空き店舗の活用支援策等を検討する。 ・ひまわりの丘公園は、夏場の来園者の減少に歯止めがかかったが、公園利用者数は近年減少傾向にあるため、遊具新設、駐車場の拡大などの施設の改修等を進め、周辺施設との新たなイベント等を企画し、交流人口を創出する。また、農産物販売所の活性化のための農産物振興施策の検討を行う。 ・さらなる人口減少や少子高齢化が予測される状況において、土地区画整理事業等の手法により、魅力的な都市形成を維持・促進し、定住人口を増加させる。新たに平成23年から垂井南土地区画整理事業の地元協議を進めており、早期の事業実施を目指す。 ・市民活動拠点「うるおい交流館エクラ」に市民交流ホールを整備したことによる相乗効果により、交流人口は増加傾向にある。さらなる施設活用のため、北播磨市民活動支援センターと市が連携し、PR活動や新たな企画、利用プランなどの検討を行う。
-------------------------	---